

かわさきTMO通信

＜毎度おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです＞

2014年1月号 No.50

- 猪熊会長 新年の抱負
- 馬場副会長 新年あいさつ
- タウンマネージャー報告
- 事務局だより

発行元：川崎商工会議所
 発行責任者：会長 猪熊俊夫
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2014年1月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-211-4114
 FAX：044-211-4118
 Email：
 sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指しています。タウンマネージャーにお気軽に情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇猪熊会長 新年の抱負



明けましておめでとうございます。昨年には経済的にはアベノミックスで明け暮れた1年でした。株価上昇は、デフレ脱却を感じさせるものであり、それが消費拡大につながってくることを期待させるものであります。

川崎駅周辺地区もこの1年間にいろいろの変化をしています。特に、街を往来する人やJR川崎駅の中央連絡通路の人での多さに驚かされます。マンションが新築され、新しい居住者が増え、西口に東芝スマートコミュニティセンターが完成し、この1月には、7800人の就業者が新たに生まれました。さらにTMOが実施した来街者調査結果をみると東京南部地域を中心とした来街者も増加しております。明らかに川崎駅周辺地区の商圈は広がっております。

一方、大変気になることもあります。この増えつつある来街者がはたしてこの川崎駅周辺の街に満足している

でしょうか。昨年、ある1通の手紙が市長あてに届きました。市外にお住まいで、ミューザシンフォニーホールで演奏会を堪能し、大変満たされた気分、食事でもしようとされたようです。しかし、店をさがしていると呼び込みの人にしつこくつきまとわれ、せっかくのコンサートでの満たされた気分が壊されてしまったという内容でした。特に東口の一部では急に呼び込みが増えてくるようで、このままでは、「誰でも安全に楽しく歩ける街」とはかけ離れて、街自体が壊れていく危機感を持ちました。TMOのもとで12商店街が商店街協定を結んでおります。そこには、はみ出し看板、はみ出し商品展示、呼び込みをなくすことを約束しております。まさに、協定の実行性が問われてきております。

本年は、増加する来街者の方々に満足していただける「街」の環境をつくるって行くことが、最大の目標となります。TMOとしては、行政、警察、町内会とも連携しながら、実行性のある対策をつくっていききたいと思います。

本年も皆様と一緒に川崎駅周辺地区の活気ある、安心安全な街づくりを進めてまいります。

(猪熊俊夫)

◇事務局だより

2014年もはや1か月が過ぎました。あらためまして、本年もかわさきTMOをよろしくお願ひ申し上げます。

さて、前号でお知らせできまらなかったが、11月25日には今年度第2回目のTMO総会が開かれ、各部会の活動内容を中心に、予定通り事業予算が執行中であることが報告されました。

また、12月19日のフェスティバルなかわさき実行委員会による反省会では、年々規模が大きくなる各イベントにとって「警備」が新たな課題となつていくことなど確認されました。

商店街協定認定店に川崎駅前仲見世通商店街振興組合推薦の「大陸」(写真下・東田町1-12)と「やよい軒」(写真上・砂子2-3-17)の2店舗が加わりました。



▲やよい軒



▲大陸

(事務局 六反友佳里)

◇馬場副会長 新年あいさつ



あけましておめでとうございます。今年も川崎駅周辺地区では、いい1年となることが期待できます。今年も川崎駅周辺地区では、川崎駅北側、及び京急川崎駅で事業が進んでまいります。いよいよ川崎駅北口改札口及び東西自由通路の工事が始まりました。完成は、2017年度中と見込まれています。さらに駅の上に地上5階建の商業施設や子育て支援施設などが出来ます。また京急川崎駅もホテル・商業施設の建設と同時に駅の改修工事も始まりました。こちらの方は、2015年度に完成が見込まれています。川崎駅の南側をみますと、東芝スマートコミュニティセンターの完成、キャノン柳町研究施設の2期工事も始まりました。昨年夏に高速路線バスの停留所がチッタフットサル場の道路側に出来ましたが、TMOでは、さらに大型バスの駐車場整備について提言を続けてまいります。

このように、川崎駅周辺での開発整備の動きを確認しながら、TMOとしての新しい街づくりを進めてまいりたいと考えております。TMOのめざす「誰でも安心して楽しく歩ける街づくり」の実現に向けて商連、商店街、大型店とも一緒になって一つ一つ出来るところから進めていきたいと思っております。

（馬場義弘）



川崎駅北口改札口及び東西自由通路の完成予想図

◇タウンマネージャー報告

2014年の年明けで、川崎駅周辺の商店街の初夢を見てみたいと思います。

商店街の形成は、いろいろな商売をしているお店の連続性にあります。近隣に住んでいる人は、毎日の食材や日用品を買いに来ます。食事をしたり喫茶をしたり、美容院や写真館などの特殊な技能を売る店もあります。このように多種多様な種類の店舗が並ぶことで、顧客にとっては便利で必要なものを手に入れることができます。もう一つ別の種類の商店街があります。それは、ある特定の業種が固まっているケースです。問屋街などはその典型です。川崎駅周辺で見れば、仲見世通りが飲食店を集めて通りを形成しています。

さて、このような商店街の衰退が全国で叫ばれていますが、将来の商店街の姿を想定してみましよう。何が商店街を衰退させているのか。それは、一言で商店街に魅力がなくなり、顧客のニーズに答えていないからです。店主も自信を失って、店を息子や娘に後を継がせることも難しくなっています。誰も継がない店は、閉店においてこ

まれます。店が歯抜けのようになれば、ますます商店街の魅力は無くなってきます。まさに負の連鎖を起こします。川崎駅前の商店街は、自分の店をやめてビルを建てて床を賃貸する商売に転換するケースが多くあります。さて、ここからです。かつてはお店を持って商売していた人が、お店を閉じ、2階建木造の店を壊して、その土地にビルを建てます。店主からビルオーナーへの転身です。そこで、ここでビルオーナーが一人勝手にテナントを決めるのではなく、商店街のビルオーナーが集まって、商店街全体のマネージメントをすれば、商店街の魅力を十分に発揮することができるでしょう。つまり、ビルオーナーは、自分のビルだけの収益を考えるのではなく、他のビルオーナーと協同して、マーケティングして、その商店街の最適のテナントミックスを作り出すのです。それは、結果として一つ一つのビルの収益性を高めていくこととなるでしょう。魅力的な店が並び、遠くからも買物に訪れる人たちが溢れる、新しい商店街があらわれます。そのような夢をみて、今年のお正月が過ぎていきました。

（タウンマネージャー 笹原克）